

野外保育とよた 森のたまご

調査団体名 : 野外保育とよた 森のたまご
 設立年 : 2010年
 団体URL : <http://blog.goo.ne.jp/morinotamago2010>
 活動拠点 : 豊田市の里山
 取材日 : 2015年12月15日

団体代表者名 : 遊佐美絵
 対応してくれた人の名前 : 遊佐美絵
 調査員 : 桑淳、溝口裕太、Siti Norbaizura Binti Md. Rejab
 レポート作成者 : Siti Norbaizura Binti Md Rejab

活動内容

森の中で一日を過ごす「森のようちえん」。2010年に設立され、現在3人のコアスタッフと週1回の親当番の協力で運営している野外のようちえんです。17人の3・4・5歳の幼児と4人の大人が毎日自然の中で自由に遊んだり、探検したりして、体を動かしながらさまざまなことを身につけます。木曜日と金曜日には同じ場所で活動を行いますが、それ以外の日には豊田市のいろいろなところで現地集合、現地解散という形のようちえんです。人数の少ないようちえんでみんな家族のように関わり畑で野菜を育てたり、川の生き物をと触れ合ったり、餅つきやおまつり等の行事を行い、天気や季節に合わせて活動を計画します。晴れの日でも雨の日でも外で経験を通じて学んでいます。

キャッチフレーズ

ちいさなようちえん おおきなかぞく

会のモットー(何を大切にしているか)

自然の中で出会う一つ一つの体験が、満足感や達成感、迷い・悔しさに繋がる。

色んな想いを育てるために、また子ども同士の遊びや、ケンカの関わりの中で育つものを大切に、大人は答えを持たず、ただ子どもと子どもをツナグ役割をします。

大人の指示を持つ子ではなく、自分から考え行動する子になって欲しいと願っています。

小さな森のたまごだから、大人も子どももぶつかり合い育ち合う。

そして自分らしく生きる。一人一人が大切な家族。

設立から現在に至るまで変化したこと

子どもだけでなく大人も一緒に成長します。(例えば、野菜を育てるためにママたちが自分でいろいろと勉強し、年上の方からも学んで実行します。失敗しても勉強の過程として受けること。)

連携している団体・専門家・自治体など

森のようちえん てんとうむし、豊田市 とよた市民活動センター、森のようちえん全国ネットワーク

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

山村再生には直接つながっていませんが、森のたまごに通っている子どもたちは、時間はかかるけれど大きくなったときに、今自然の中で身につけたこと・経験したことを、大人になっても体のどこかで覚えていて生かすことができます。

現在直面している課題

- ・活動場所・建物がないこと
- ・行政からの援助・サポートが限られていること
- ・周りの認知度の低いこと

今後やってみたいこと

豊田市内にもっと森のようちえんを増やしたい。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

愛知県の森のようちえんのネットワーク。

チームオリジナルの質問

<質問内容>子どもたちが小学校に入学したら、教室内で授業を受けることに対しては抵抗ありませんか？

<答え>野外で自由に遊べた森のようちえんとちがって、学校に入学したら座って授業を受けることがはじめての経験となるので、その新鮮さを楽しんでほしい。

チームオリジナルの質問

<質問内容>子どもたちが外で遊んだりするのに不審者などの心配は？

<答え>ありますが、情報発信のときに場所の特定や子どもの個人情報・顔などを特に気を付けます。

写真



いつも自由に元気に動いて、自分がやりたいことを自分で決めて行動してる子どもたち。